

# ながの金融広報だより

## 「くらしに役立つ講演会」を開催しました

長野県金融広報委員会では、9月23日(土・祝)に上田市のサントミュージゼにおいて、元衆議院議員の杉村太蔵氏をお迎えし、『杉村太蔵が語る お金と人生設計と生きるチカラ講座』と題して、「くらしに役立つ講演会」を開催し、約160名の方にご参加いただきました。

資産運用や投資をする上での会社の見方などを噛み砕いて、楽しく分かりやすくお話しいただきました。

参加者からは、「とても分かりやすく、大変勉強になりました」、「多くの学びを得ました」、「とても楽しくあっという間の90分でした」等の声が多く寄せられ、大変盛況な講演会となりました。



## 次回の講演会 予告

今年度第2回目の講演会を、来年2月に開催します。

講師は、2024年7月前半に発行を開始する“新しい一万円札”の肖像「渋沢栄一」の玄孫である渋澤 健氏です。応募方法等の詳細は、1月頃に、当委員会ホームページや新聞広告等でお知らせいたします。お楽しみに！



日 時	2024年2月5日(月) 18:30~20:00
会 場	ホテルメトロポリタン長野
講 師	渋澤 健 氏 (シブサワ・アンド・カンパニー(株)代表取締役)
演 題	「渋沢栄一の『論語と算盤』を現代に活かす」

## 「青少年生活設計講座」の開催希望校を募集しています

長野県金融広報委員会では、自立した社会人として欠かせない正しい金融・経済の知識を身に付けるとともに、悪質商法被害、クレジットトラブル等の消費者トラブルを未然に防止することを目的とした「青少年生活設計講座」(出前講座<講師派遣費用無料>)を開催しています。

これからひとり暮らしを始める、社会に出る、といったタイミングの高等学校・大学・専修学校・各種学校等の生徒・学生を主な対象としています。

申し込み方法等、詳しくは当委員会事務局までお問い合わせください。

# お金の勉強、動画で気軽にはじめませんか？

eラーニング講座「マネビタ」はお金に関わる6分野を学べる、金融教育に関わる専門家による講座(全18本<受講料無料>)です。本年10月からは「NISA・確定拠出年金(企業型DC、iDeCo)」についての内容が大幅に拡充されました。

1本あたり10分～15分程度で、要点をギュッと詰め込んでいるのでスキマ時間にピッタリ！「知るぼるとHP」でも、「gacco(無料ウェブサービス)」でも視聴できますので、この機会にぜひ、お金の基本について学んでみませんか。

知るぼるとHPのマネビタページ

gaccoのマネビタ募集ページ



## 「先生のための金融教育セミナー」をオンデマンドで開講中

金融広報中央委員会では、今年度も「先生のための金融教育セミナー」(受講料無料)を開催しています。実践事例をオンデマンド形式で配信するほか、7月に開催したハイブリッドセミナーの様もダイジェストで配信しています。

金融教育に関心のある先生、教職をめざす学生の方、ぜひご視聴ください。



### コラム 信州の風

#### 信州と海

長野県金融広報委員会 事務局長 (日本銀行長野事務所長) 山城 吉道

海なし県の当地に「信州の海」。長野県に隣接しアクセスのよい日本海の海水浴場を親しみ込めて呼ぶものさうだ。山に囲まれる信州と「海」との関係は縁遠いイメージですが、古の時代から浅からぬものがあるようです。

古墳時代には、既に、渡来人によって大陸系の文物がもたらされる一方で日本書紀には海を渡って百済における信濃人(出身の国「斯那奴または科野」を姓に冠した人物)の活躍が記されているなど、往来が窺われます。また、安曇野の由来は、古代九州北部を本拠とし海運を司り中国や朝鮮とも交易していた「阿(安)曇族」が移り住んだものと伝えられており、平安時代に編纂された延喜式神明帳に記載されている明神大社穂高神社には安曇族の祖神とされる海に関係する神々が祭られているのは興味深いところです。余談ですが、松代のお城の名前にみられる「海津」という地名にも、内陸の地名として不思議に思われますが、諸説ある中には、大昔この一帯が大きな湖だったとか千曲川の川船の港(津)があったからとするものもあるようです。

「敵に塩を送る」は有名な上杉謙信の美談ですが、信州には、こうした当時からたいへん貴重だった塩の流通網も早くから整備されていました。江戸時代に至っては、北国街道ルート、千国街道ルート、木曾川・中山道ルート、矢作川・飯田伊那ルート、富士川・甲州街道ルート、利根川・中山道ルートといった、信州と「海」とを繋ぐ「塩の道」を有していました。因みに、「塩尻」との地名には、山間部では手に入らない塩の流通の尻(太平洋側の南塩と日本海側の北塩が出会う終着点)として名づけられたとする説があるそうです。

日本を代表する貿易港「横浜港」もまた信州と関わりの深い「海」です。開港当時の横浜港から海外への最大の輸出品目は生糸でした。当時、良質な生糸の産地の一つとして、信州からも、中山道や甲州街道等の陸路や利根川といった水路の「シルクロード」を通じ、横浜港から海外に輸出していました。信州の生糸・蚕糸業は、地元の良質な材料(蚕種製造・養蚕)と製糸の技術革新を図るとともに、流通面でも明治2年以降、信州と横浜を結ぶ鉄道網が整備・強化されていきました。こうした中、信州は明治10年頃から蚕糸王国として国内シェアトップに君臨し、明治43年には日本を世界一の生糸輸出国に押し上げました。やがて、養蚕・製糸業が衰退する中、精密機械工業等の輸出ウエイトの高い産業育成を移し、現代に至ることは周知のことです。

古の時代より現代に至るまで、それぞれの時代に、当地内外の文化や産物を結ぶ流通・ネットワークが構築されていたことに驚かされます。国内外でサプライチェーンの再構築が求められる現代においても、こうした当地の持つレジリエンス・風土が信州の未来を紡いでいくことでしょう。

### 長野県金融広報委員会

事務局：〒380-0936 長野県長野市岡田 178-8 (日本銀行長野事務所内) TEL：026-227-1296 FAX：026-223-0128  
E-mail：info@nagano-money.com URL：https://nagano-money.com

